

明細書

農林水産大臣 殿

作成日 平成29年10月18日

改定日 令和 3年 5月28日

1 作成者

住所（フリガナ）：〒020-0863 もりおかしみなみせんぼくにちようめ ぼん ごう 盛岡市南仙北二丁目3番21号

名称（フリガナ）：いっぽんしゃだんほうじん いわてけんもくたんきょうかい 一般社団法人 岩手県木炭協会

代表者（管理人の氏名）： 会長（代表理事） 浦田 秀夫

ウェブサイトのアドレス： <http://www.mokutan.jp>

2 農林水産物等の区分

区分名： 第40類 木炭類

区分に属する農林水産物等： 黒炭

3 農林水産物等の名称

名称（フリガナ）： 岩手木炭（イワテモクタン） 岩手切炭（イワテキリズミ）
I W A T E C H A R C O A L

4 農林水産物等の生産地

生産地の範囲： 岩手県

5 農林水産物等の特性

「岩手木炭」は、岩手県内で県内産の原木を使用して生産された黒炭である。木炭は、その製炭方法の違いによって黒炭と白炭に区分されるが、国内の一般的な黒炭の炭化温度が400～700度であるのに対し、「岩手木炭」は高温（約800度）で製炭されているため、炭素割合が概ね90%（社団法人全国燃料協会が定めた「燃料用木炭の規格（黒炭）」では、75%以上）と高く、燃焼時の煙や炎、臭いが最小限に抑えられており、燃焼後に残る灰も少ない。

また、材質が硬く木炭に最適なナラやクヌギのみを原木に使用しており、炭質が硬く火持ちが良い。（添付資料1：「木炭成分分析結果」）

さらに、岩手県独自で開発した岩手窯、岩手大量窯を使用し、窯内を均質な温度に保ち時間をかけて丁寧に製炭することで、原木の全体が均等に炭化され、炭質が良く締まり割れが少ない。樹皮の附着も多いことから着火も容易である。

木炭研究の第一人者である岸本定吉林学博士の書籍には、「『木炭の岩手』と言われ

るくらい品質の良い木炭が大量に製炭されている。昭和 32 年には、173,246 トンの木炭を焼いた記録がある。(中略) 岩手県木炭協会は検査機関、技術指導態勢、その販売にいたるまで完備した団体で、岩手県の木炭の品質改良に大きな功績を残している。この強固な団結、統制力が、個人生産、へき地のバラバラ生産をよく取りまとめ、今日の『岩手の木炭』の名声を得るにいたった。」とその品質の高さが紹介されている。

(引用書籍：岸本定吉「炭」1998 年初版発行)

終戦後から開催されていた全国木炭品評会では、団体優勝をはじめ常に上位入賞を果たしてきた。その後、エネルギーの消費構造の変化によって、木炭の生産量は減少し木炭品評会の開催が中断されたが、平成 2 年に岩手県単独での木炭品評会を再開し、林野庁長官賞を授与されている。

平成 18 年度からは参加条件である出品点数 100 点以上を全国で唯一満たしている木炭品評会として、農林水産省と公益財団法人日本農林漁業振興会が開催している農林水産祭へ参加しており、現在まで毎年、農林水産大臣賞及び林野庁長官賞を授与されている。(添付資料 2:「受賞歴一覧表」)

6 農林水産物等の生産の方法

(1) 樹種

岩手県産の「ナラ」又は「クヌギ」を使用する。

(2) 生産の方法

「岩手窯」又は「岩手大量窯」を使用する。

(3) 出荷規格

精煉度が 8 度以内の炭質であること。

精煉度は炭化の度合いを示す。木炭表面の電気抵抗を 0～9 度の 10 段階で表示したものである。

なお、一般的に木炭下部の炭化度が低くなるので、出荷規格を満たすために一定部分を切落す。

(4) 最終製品

岩手木炭の最終製品としての形態は木炭（黒炭）である。

7 農林水産物等の特性がその生産地に主として帰せられるものであることの理由

岩手県は、森林資源が豊富で、古くから木炭の生産が盛んな地域であった。現在も、岩手県の森林面積は、総面積の 77%を占めており、全国平均の 67%を大きく上回っている。さらに、岩手県の素材生産量は、全国で 3 番目に多く、素材生産量に占める広葉樹の割合が 22%と全国平均の 11%に比べ極めて高い。(林野庁：平成 27 年度木材需給報告書)

岩手県は、古くから木炭生産が盛んではあったが、昔は、各生産者で窯の構造が統一されていなかったことから、岩手県木炭協会が主導し、昭和 28 年から新たな製炭

窯の開発研究を行い、昭和 31 年に岩手窯を完成し、その後も改良を重ねて昭和 39 年に岩手大量窯へと発展させた。岩手窯は、窯内の熱対流まで考慮した独自の構造によって、窯内の温度が均等化され良質で安定した品質の木炭が生産可能であるとともに、製炭操作も容易である。

窯の統一によって、製炭作業が基準化されたことから、岩手県木炭協会は、県内各地域で岩手窯の築窯技術指導、講習会を開催し普及に努め、県内の木炭の品質向上と安定化を図ってきた。

岩手県も、岩手県の歴史ある優れた製炭技術を伝承するため、昭和 63 年に製炭技士認定制度を創設し、炭焼き職人の中でも特に優れた技術を有する生産者を「岩手県製炭技士」通称チャコールマイスターとして認定し、若手生産者の育成等に成果を上げている。

なお、この岩手県独自の岩手窯、岩手大量窯は、主に粘土質の土を材料とした土窯で、その材料は県内各地で採れるが、特に主産地である県北地域では、窯に適した粘土質で断熱性に優れた珪藻土が採れるため、現在も多くの製炭窯が存在している。

8 農林水産物等がその生産地において生産されてきた実績

岩手県の木炭生産の歴史は古く、平泉文化（1100 年前後）の頃からと言われており、平泉遺跡群発掘調査では、12 世紀前半の陶器窯の跡から、陶器を焼く際に炭が熱源として使われていたことが報告されている。

明治初期は、製鉄が盛んな東北地方の工業用木炭としての需要が大半であったが、明治 24 年に東北本線が盛岡まで全線開通したのをきっかけに、東京へ一般燃料としての出荷を伸ばし大正元年には岩手県が「木炭生産量日本一」としての地位を確立した。

その後も岩手県木炭協会指導のもとに新たな製炭窯の開発を行うなどの取組を継続し木炭の品質の向上と安定化を図ることで、消費者から高い評価を得ており、全国木炭生産量（黒炭・白炭）10,374 トンに占める岩手県の木炭生産量は 3,317 トンで 31%を占め、現在も日本一を維持している。（林野庁：平成 28 年特用林産基礎資料）

9 法第 13 条第 1 項第 4 号ロ該当の有無等

(1) 法第 13 条第 1 項第 4 号ロ該当の有無

申請農林水産物等の名称は、法第 13 条第 1 項第 4 号ロに

該当する

該当しない

(2) 法第 13 条第 2 項該当の有無（(1) で「該当する」欄にチェックを付した場合に限る。）

法第 13 条第 2 項第 1 号に該当

【専用使用权】

専用使用权は設定されている。

添付資料1：「岩手県工業技術センター 木炭成分分析結果」

岩手木炭の成分分析値

①地方独立行政法人岩手県工業技術センターの成分分析値

※原炭の部位別「上部」「中部」「下部」を抽出した成分分析値。

区別	樹種	原炭の部位	炭素 (%)	灰分 (%)	揮発分 (%)	発熱量 (kcal/kg)
黒炭	ナラ	上部	93	0.9	6.6	7,950
		中部	91	0.8	8.1	8,100
		下部	85	1.5	13.0	7,870

※窯の採取場所別「窯前」「窯中央」「窯奥」、原炭の部位別「上部」「中部」「下部」を抽出した成分分析値。

区別	樹種	原炭の部位	採取場所	炭素 (%)	灰分 (%)	揮発分 (%)	発熱量 (kcal/kg)
黒炭	ナラ	上部	窯前	87	3.9	9.0	7,240
			窯中央	94	1.5	4.8	7,870
			窯奥	92	2.1	5.9	7,830
		中部	窯前	92	2.3	5.3	7,730
			窯中央	93	1.2	5.7	8,040
			窯奥	91	2.2	7.1	7,970
		下部	窯前	91	1.9	7.1	7,780
			窯中央	87	2.6	11.0	7,780
			窯奥	89	1.6	9.1	8,030

②民間分析機関の分析値

※原炭の部位別「下部」を抽出した成分分析値。

区別	樹種	原炭の部位	炭素 (%)	灰分 (%)	揮発分 (%)	発熱量 (kcal/kg)
黒炭	ナラ	下部	89	2.7	8.3	7,800

③民間分析機関の分析値

※任意抽出した成分分析値。

区別	樹種	原炭の部位	炭素 (%)	灰分 (%)	揮発分 (%)
黒炭	ナラ	任意抽出	91	1.8	6.1

※参考

木炭の炭化は、一般的に原炭の「下部」が最も炭化度合いが低い。(炭素割合が低い。)

「全国の燃料用木炭の規格」

区別	炭素	灰分	発熱量
黒炭	75%以上	5%以下	7,000kcal/kg 以上

添付資料2: 全国木炭品評会等の受賞歴一覧表

年	開催名	開催地	団体受賞	個人受賞
S25	全国農林産物品評会	明治神宮	優勝	
S26	全国農林産物品評会	明治神宮	優勝	
S27	全国農林産物品評会	明治神宮	優勝(3連勝)	農林水産大臣賞 2名受賞
S28	全国木炭品評会	福島県	準優勝	林野庁長官賞
	第4回全国農林産物品評会	明治神宮	優勝(4連勝)	農林水産大臣賞 2名受賞
S29	第2回全国木炭品評会	山口県	優勝	農林水産大臣賞 2名受賞
	第7回全国農林産物品評会	明治神宮	優勝(5連勝)	
S30	第3回全国木炭品評会	長野県	準優勝	農林水産大臣賞 2名受賞
	第8回全国農林産物品評会	明治神宮		農林水産大臣賞 1名受賞 林野庁長官賞 1名受賞
S31	全国農林産物品評会	明治神宮		農林水産大臣賞 1名受賞
S32	第4回全国木炭品評会	高知県	優勝	農林水産大臣賞 2名受賞 林野庁長官賞 6名受賞
	全国農林産物品評会	明治神宮		農林水産大臣賞 2名受賞
S33	第11回全国農林産物品評会	明治神宮		農林水産大臣賞 2名受賞
	第5回全国木炭品評会	山梨県	3位	農林水産大臣賞 1名受賞 林野庁長官賞 4名受賞
S34	第6回全国木炭品評会	島根県	準優勝	農林水産大臣賞 1名受賞 林野庁長官賞 5名受賞
	第12回全国農林産物品評会(新穀感謝祭事業)	明治神宮		農林水産大臣賞 2名受賞
S35	第7回全国木炭品評会	岩手県	優勝	農林水産大臣賞 4名受賞 林野庁長官賞 21名受賞
S36	第1回全国切炭共進会	東京都	農林水産大臣賞3団体 林野庁長官賞7団体	
	第14回全国農林産物品評会(新穀感謝祭事業)	明治神宮		農林水産大臣賞 1名受賞
S37	第2回全国切炭品評会	愛知県	農林水産大臣賞 2団体受賞 林野庁長官賞 7団体受賞	
	第1回農業祭(新穀感謝祭事業)	明治神宮	農林水産大臣賞 4団体 受賞	

昭和38年から平成元年まで中断

H2	岩手県木炭品評会 ※単独開催(復活)	岩手県		林野庁長官賞 2名受賞
H3	第2回岩手県木炭品評会(いわて林業祭参加)	〃		林野庁長官賞 2名受賞
H4	※開催なし			
H5	岩手県木炭品評会(日本木炭サミットとして開催)	〃		林野庁長官賞 1名
H6	※開催なし			
H7	岩手県木炭品評会(いわて林業祭参加)※単独開催	〃		林野庁長官賞 1名
H8 ~ H17	岩手県木炭品評会(いわて林業祭参加)※単独開催	〃	平成8年から平成17年まで全国農林水産祭に参加せず。	
H18	第46回農林水産祭参加行事 岩手県木炭品評会	〃		農林水産大臣賞 1名受賞 林野庁長官賞 1名受賞
H19	第47回農林水産祭参加行事 岩手県木炭品評会	〃		〃
H20	第48回農林水産祭参加行事 岩手県木炭品評会	〃		〃
H21	第49回農林水産祭参加行事 岩手県木炭品評会	〃		〃
H22	第50回農林水産祭参加行事 岩手県木炭品評会	〃		〃
H23	※東日本大震災により休止			
H24	〃			
H25	第53回農林水産祭参加行事 岩手県木炭品評会	〃		〃
H26	第54回農林水産祭参加行事 岩手県木炭品評会	〃		〃
H27	第55回農林水産祭参加行事 岩手県木炭品評会	〃		〃
H28	第56回農林水産祭参加行事 岩手県木炭品評会	〃		〃
H29	第57回農林水産祭参加行事 岩手県木炭品評会	〃		〃